



ココロとココロ

～届け 私たちの思い～

開発と権利のための
行動センター

地域住民の手で勝ち取った平和

「この地域では、多くの若者が将来の見えない日々を送っています。5年ぐらい前から、若者の暴力が広がり、若者たちが死んでいます。暴力を防がないことにはどうにもなりません。そのためには真剣な取り組みが必要ですし、さまざまな支援も必要です。このままでは、20年先には私たちの地域のアイデンティティーを持った若者はいなくなってしまうです」

中南米の先住民族を支援する「開発と権利のための行動センター」(以下、行動センター)代表の青西靖夫さんが、2008年5月に行動センターのブログで発信したメッセージだ。これは、グアテマラ西部のキチエ県コツツアルで若者たちの教育や社会参加を支えるNGOコツツアルの代表フリオ氏の言葉だった。

長らく続いた内戦は、村々に暴力の傷跡を残した。さらに、マラスと呼ばれる暴

知ることから始まる支援と連帯

コツツアルは先住民族が暮らす地域でもあり、内戦が終結した今も、先住民族が抱えるさまざまな問題が残されている。それを自らの力で解決していけるよう、側面から応援していこうというのが行動センターの活動だ。

行動センターがグアテマラで活動を始めたきっかけを「そこに、自分たちで何とかしようとする人たちがいたから」と青西さんは語る。そしてコツツアルへ行った最初の支援が、彼らが活動を維持していくために必要なパソコンを提供すること。そのための資金として、JICA基金が活用されている。

導入されたパソコンでは、コンパバスの会計管理やデータベースの作成などが行われているほか、現在5台のパソコンを使って、48人の若者たちにパソコンの使用方法などを教える研修が実施されている。スキルを身に付ければ、安定



近隣ペテン県の住民組織による自然保護区管理を視察し、土地の利用方法を学ぶ先住民族



政府や地方自治体、NGOなど、地域内のさまざまな機関との関係の在り方について、ワークショップ形式で議論する先住民族と行動センターのスタッフ

した職を得ることも決して夢ではないのだ。行動センターの支援は、こうした職業訓練だけではない。ときに、自然資源の利用などをめぐって先住民族の間で対立が生じることもあるため、彼らが抱える土地問題にも取り組んでいる。貧困から脱却し、安定した生活を送るためには、そのような問題を解決していくことが不可欠だ。

「中南米は先住民族が多く、多様性に富んでいます。スペイン語という共通言語でいろいろな人々とコミュニケーションできるという強みも持っています。つまり、それぞれの地域で土地問題とどう向き合っているの

真の平和を求め 若者たちへ

1996年まで36年間続いたグアテマラの内戦は、20万人もの死者を出し、今も国内各地に深い傷跡を残している。こうした中で、「開発と権利のための行動センター」は、若者の社会参加を促進する現地NGOコツツアルへの支援を通じて、内戦後のよりよい社会づくりに取り組んでいる。



行動センターが寄贈したパソコンを囲んで。パソコンの導入により、コツツアルの活動の可能性が大きく広がった



か、国際法をどのように使っているのか、判例はどうかなど、さまざまな経験を共有し、自らの活動に役立てられる共通項を持っている。青西さんたちは、そのための橋渡し役として、専門家や活動のキーマンなどを紹介している。国境を越え、地域と地域、先住民族と先住民族とをつなぐ仕事だ。そして、もう一つ。日本社会に向けて中南米情報を積極的に発信し、広く紹介することも行動センターが重視している活動だ。「知ることとは、現地に思いをはせることにつながるのではないでしょう。か。日本に入ってくる中南米の人々の声はあまりに少なすぎます」

あなたの小さな一歩から始まる国際協力 世界の人のためのJICA基金

JICAでは、国際協力に関心のある日本の皆さまからの寄付を、開発途上国の貧困削減や環境保全への取り組みに活用する「世界の人のためのJICA基金」で受け付けています。皆さまのご支援をお待ちしております。

寄付金の使われ方

お寄せいただいた寄付金は、途上国の貧困削減、医療や教育の提供、環境問題の解決などに取り組むNGOの活動に充てられます。各支援活動や寄付金事業収支についてのご報告は、「JICA寄付サイト」で公表します。

寄付の方法

「JICA寄付サイト」からお申し込み下さい。クレジットカードによる決済や、銀行・郵便振込みなどがお使いいただけます。JICA寄付サイトURL: <http://www.kifu.jica.go.jp/>



行動センターは地域住民組織のリーダー養成研修も実施。地域内で活用できる資源にはどのようなものがあるかを話し合う

カグループが村の中に入り込み、やがて住民までも巻き込んで無意味な抗争を繰り返すようになっていった。小さな村の中の撃ち合い。内戦がもたらした悲しい現実の数々は、人々の生活を圧迫していった。「警察も頼りにならず、横行する暴力を食い止めたのは、コツツアルで暮らす人々自身でした。自衛組織を作り、ときには強硬に、またあるときには柔軟な姿勢でマラスに立ち向かい、村の安全を守ろうとしたのです」と青西さんは話す。その結果、何とか暴力を抑え込むことに成功した。そして村の安全が確保されるにつれ、より良い社会をつくりたいと考える若者により、コツツアルの活動は活発になっていった。



JICA基金を活用して実施されたパソコン研修で学ぶ若者たち

開発と権利のための行動センターの活動の様子や団体の詳細はホームページでご覧いただけます。
<http://homepage3.nifty.com/CADE/>
<http://cade.cocolog-nifty.com/>